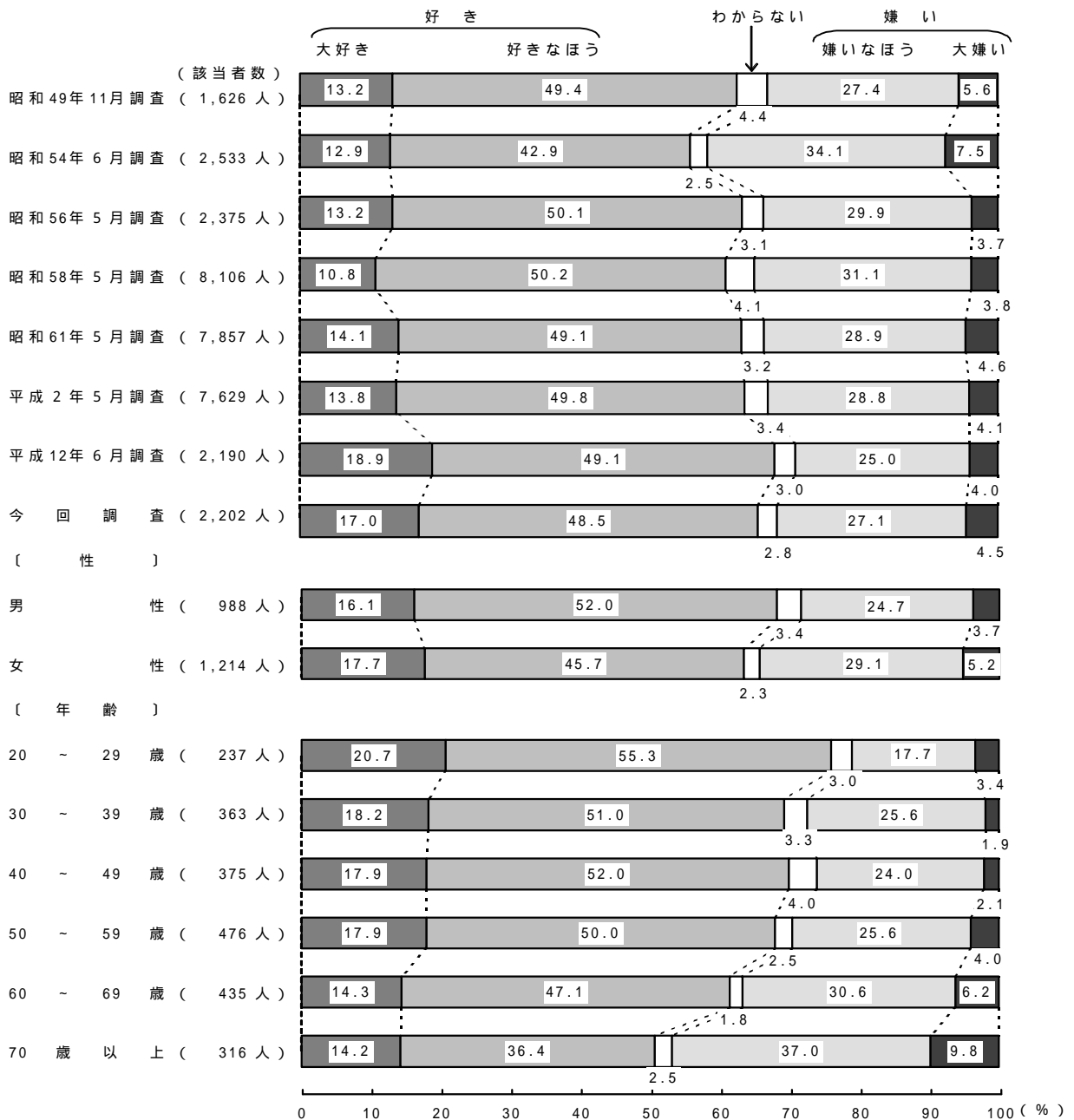


1 ペットの飼育状況について

(1) ペット飼育の好き嫌い

	平成12年6月	平成15年7月
・好き	68.0%	65.5%
大好き	18.9%	17.0%
好きなほう	49.1%	48.5%
・嫌い	29.0%	31.7%
嫌いなほう	25.0%	27.1%
大嫌い	4.0%	4.5%

図1 ペット飼育の好き嫌い



(2) ペット飼育の有無

- ・飼っている
- ・飼っていない

平成12年6月

36.7%

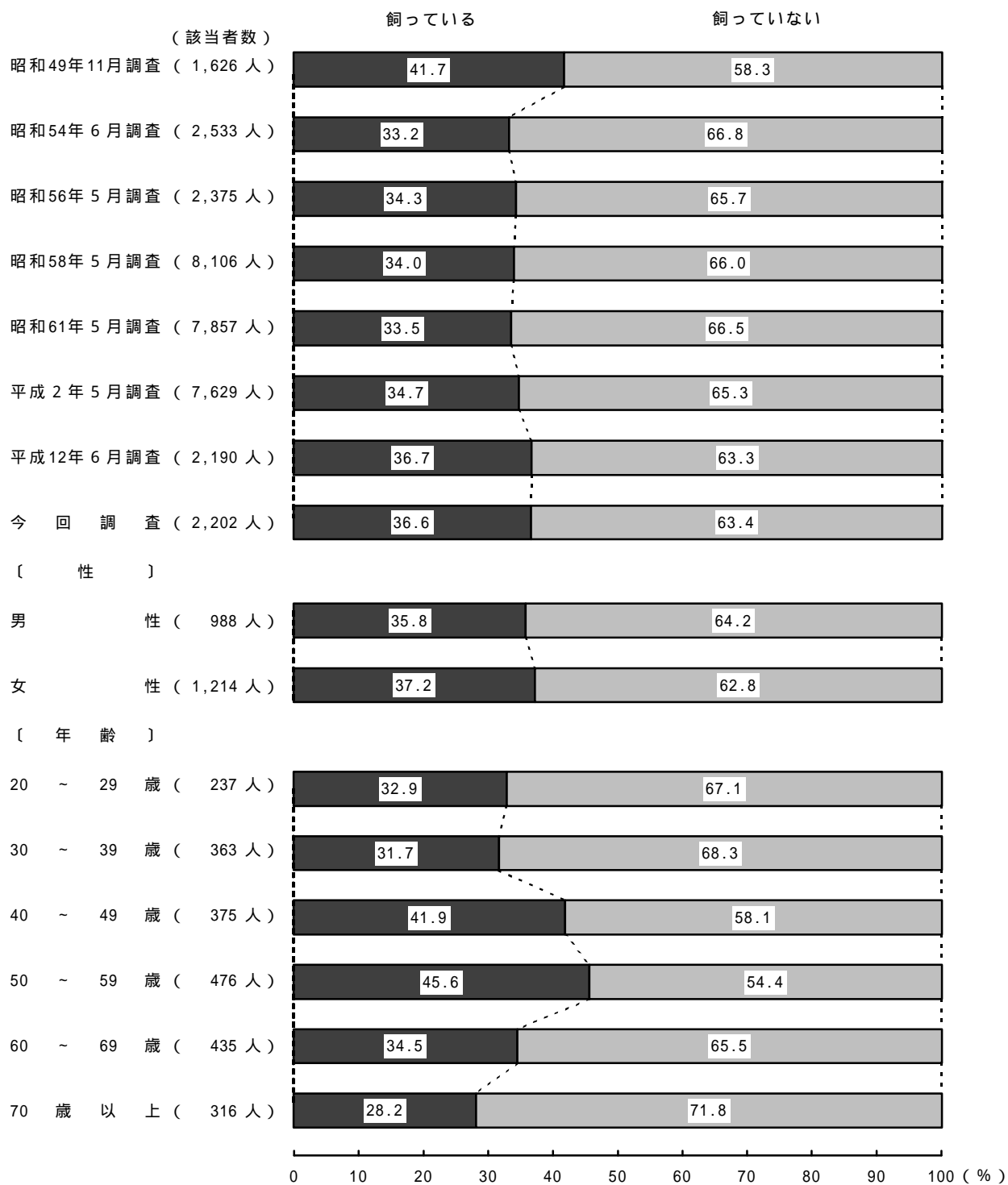
63.3%

平成15年7月

36.6%

63.4%

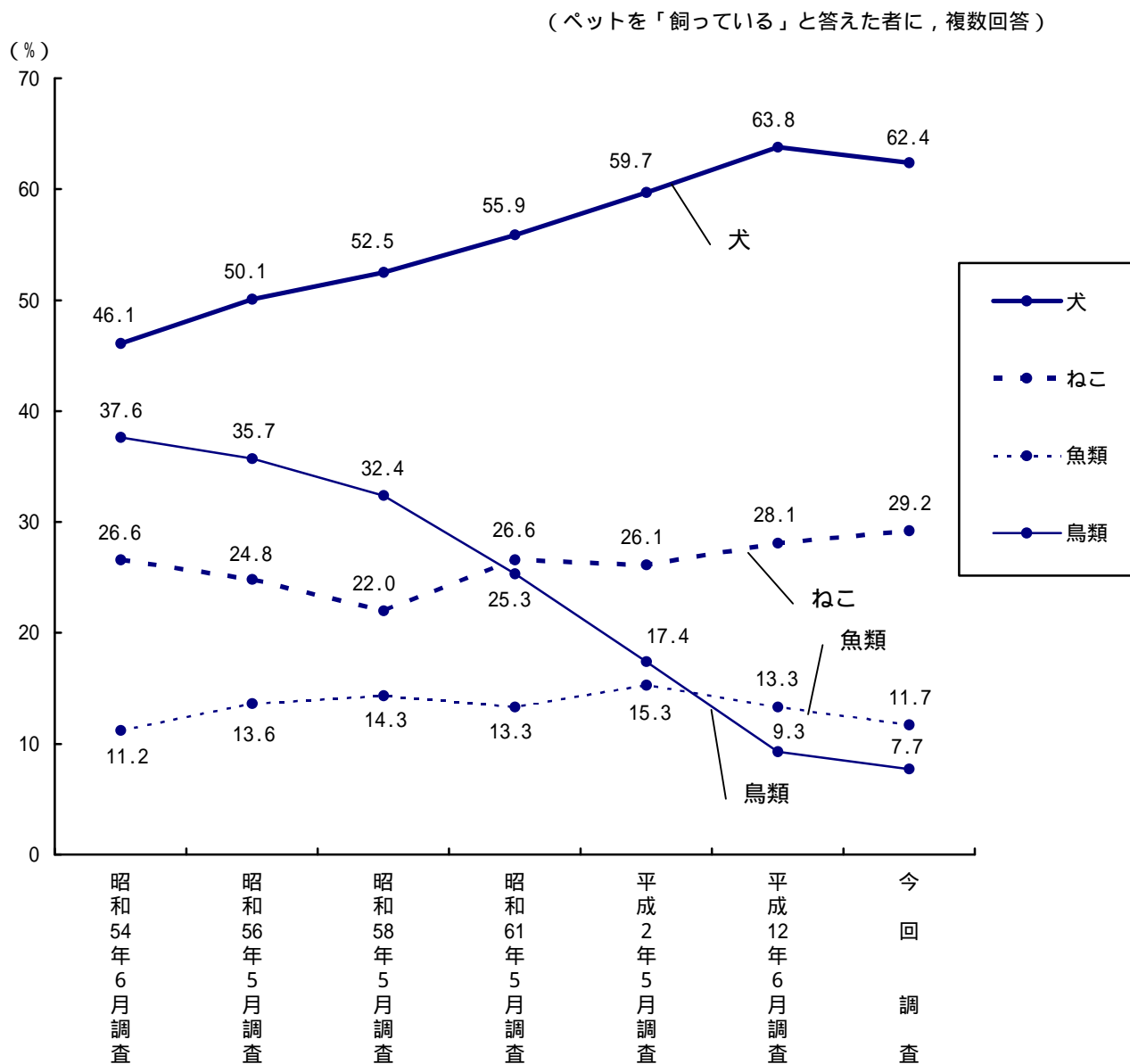
図2 ペット飼育の有無



ア 飼育しているペットの種類（ペットを「飼っている」と答えた者（806人））（複数回答，上位3項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・犬	63.8%	62.4%
・ねこ	28.1%	29.2%
・魚類	13.3%	11.7%

図3 飼育しているペットの種類

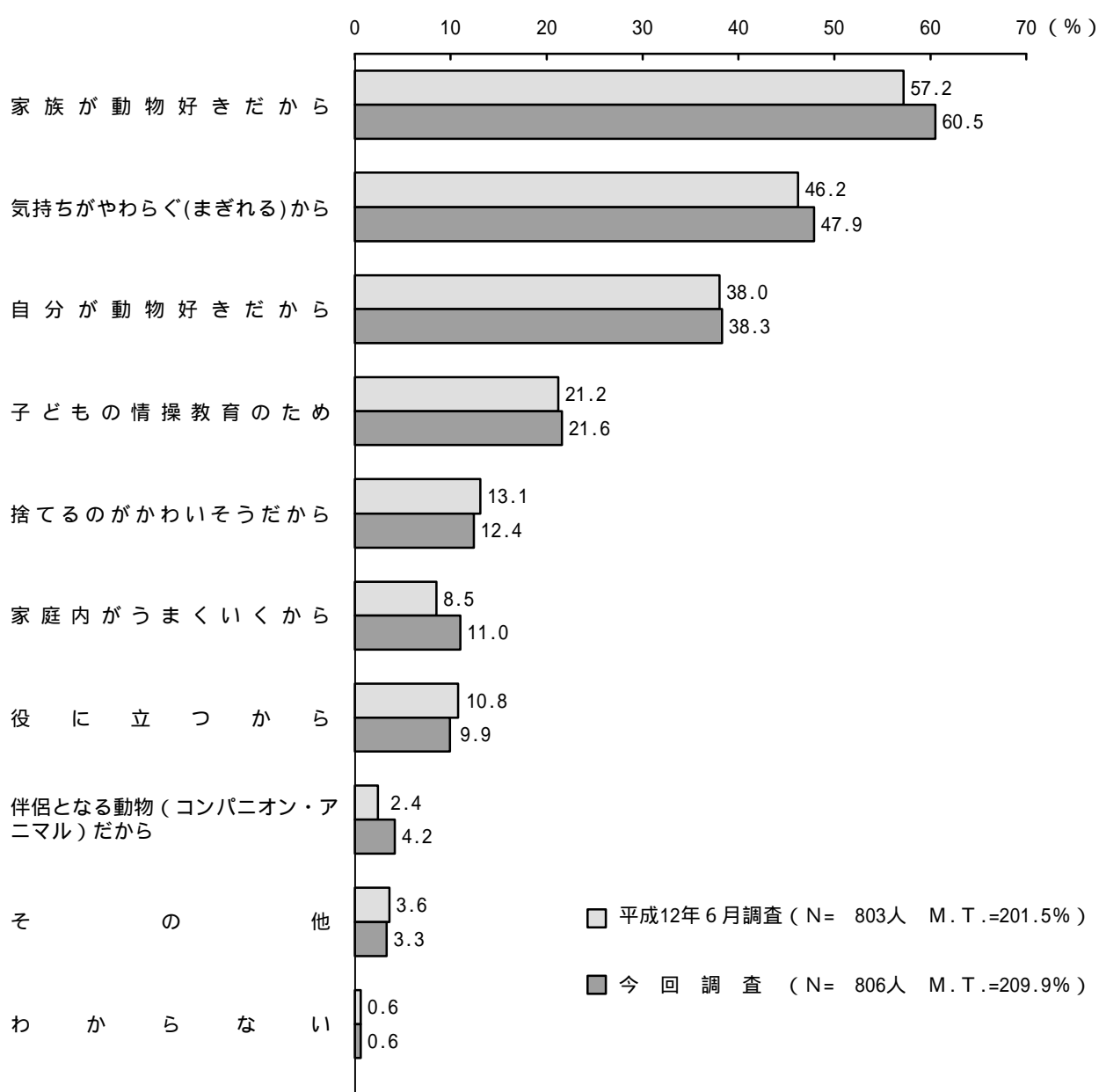


イ ペットを飼育している理由(ペットを「飼っている」と答えた者(806人))(複数回答, 上位4項目)

	平成12年6月	平成15年7月
・家族が動物好きだから	57.2%	60.5%
・気持ちがやわらく(まぎれる)から	46.2%	47.9%
・自分が動物好きだから	38.0%	38.3%
・子どもの情操教育のため	21.2%	21.6%

図4 ペットを飼育している理由

(ペットを「飼っている」と答えた者に、複数回答)



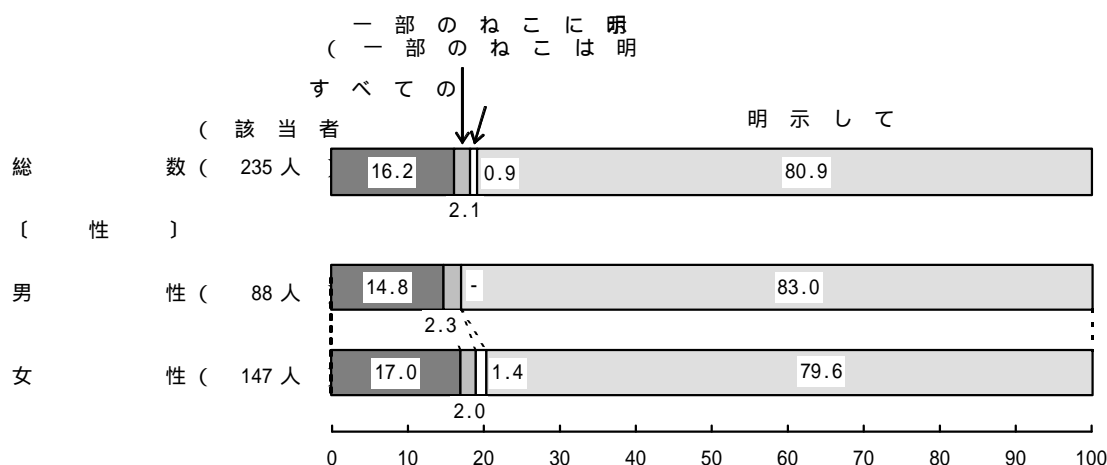
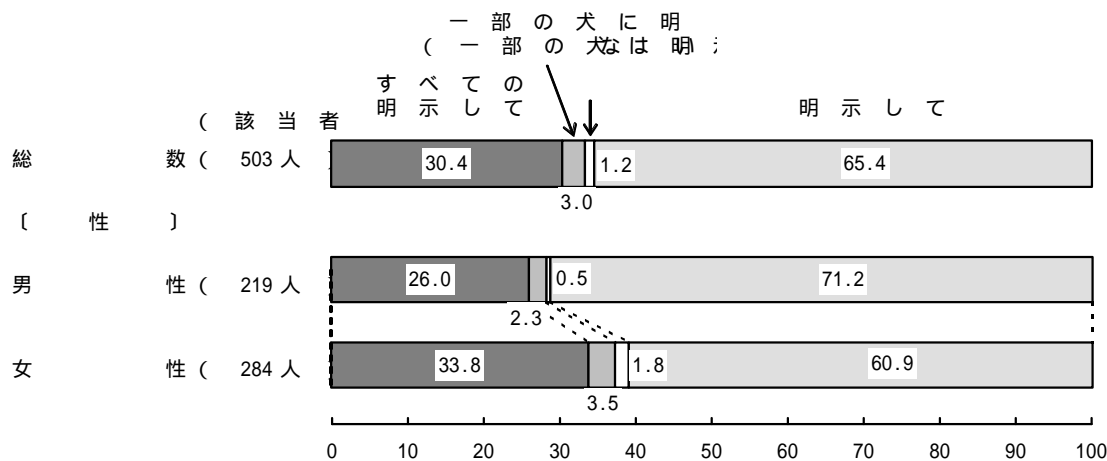
ウ 所有者明示をしているか（犬またはねこを「飼っている」と答えた者）

平成15年7月

- ・犬（503人）
 - すべての犬に明示している 30.4%
 - 一部の犬に明示している（一部の犬は明示していない） 3.0%
 - 明示していない 65.4%
- ・ねこ（235人）
 - すべてのねこに明示している 16.2%
 - 一部のねこに明示している（一部のねこは明示していない） 2.1%
 - 明示していない 80.9%

図5 所有者明示をしているか

（犬またはねこを「飼っている」）

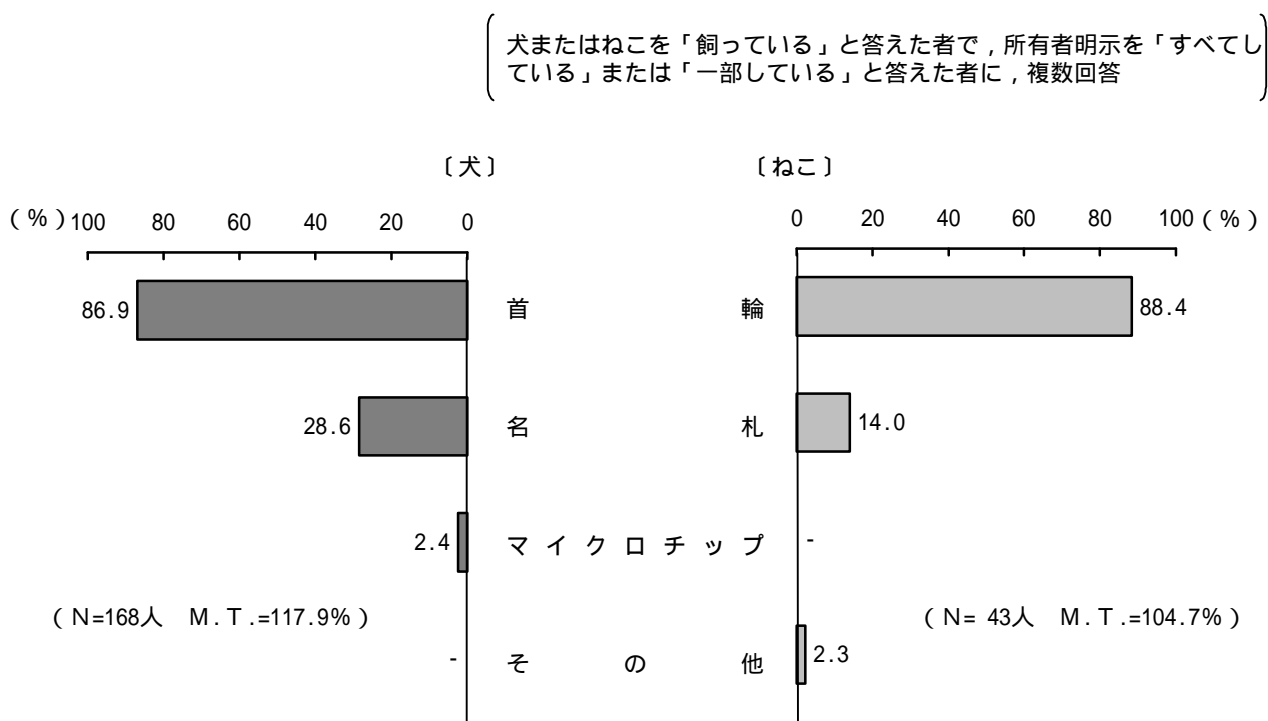


エ 所有者明示の方法(犬またはねこを「飼っている」と答えた者で、所有者明示を「すべてしている」または「一部している」と答えた者)(複数回答, 上位2項目)

平成15年7月

・犬(168人)	
首輪	86.9%
名札	28.6%
・ねこ(43人)	
首輪	88.4%
名札	14.0%

図6 所有者明示の方法



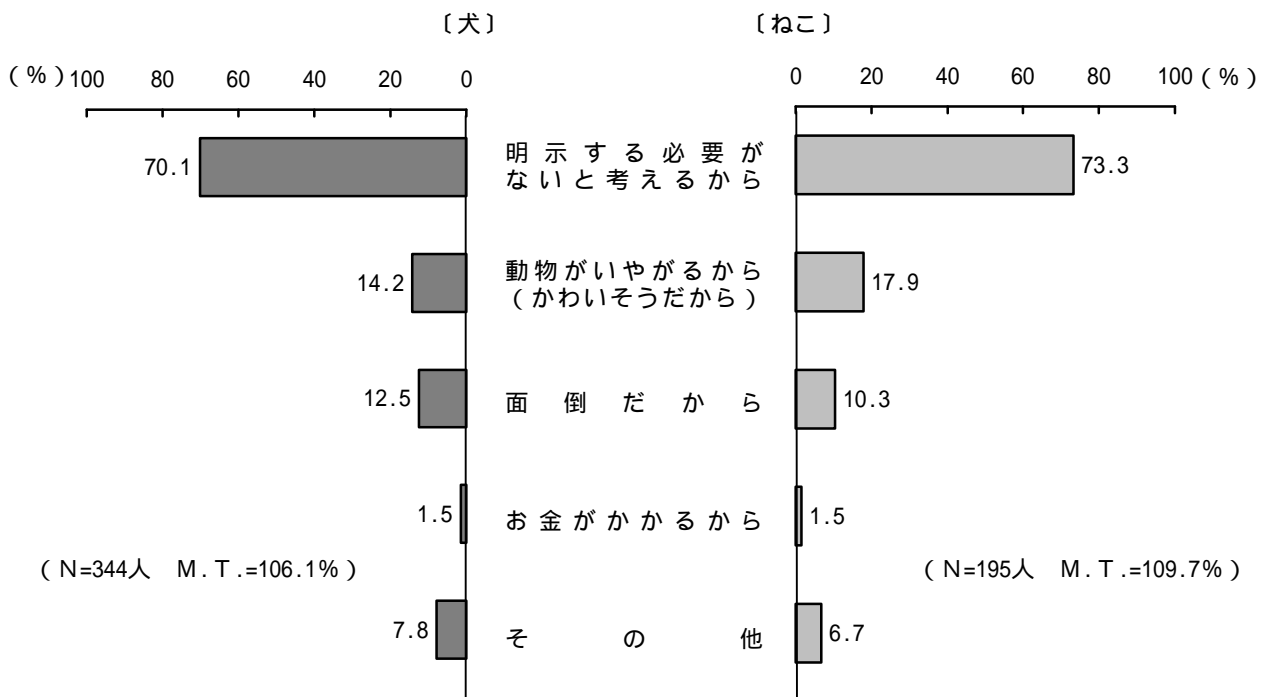
オ 所有者明示をしていない理由（犬またはねこを「飼っている」と答えた者で、所有者明示を「していない」または「一部していない」と答えた者）（複数回答，上位3項目）

平成15年7月

- ・犬（344人）
 - 明示する必要がないと考えるから 70.1%
 - 動物がいやがるから（かわいそうだから） 14.2%
 - 面倒だから 12.5%
- ・ねこ（195人）
 - 明示する必要がないと考えるから 73.3%
 - 動物がいやがるから（かわいそうだから） 17.9%
 - 面倒だから 10.3%

図7 所有者明示をしていない理由

（犬またはねこを「飼っている」と答えた者で、所有者明示を「していない」または「一部していない」と答えた者に、複数回答）



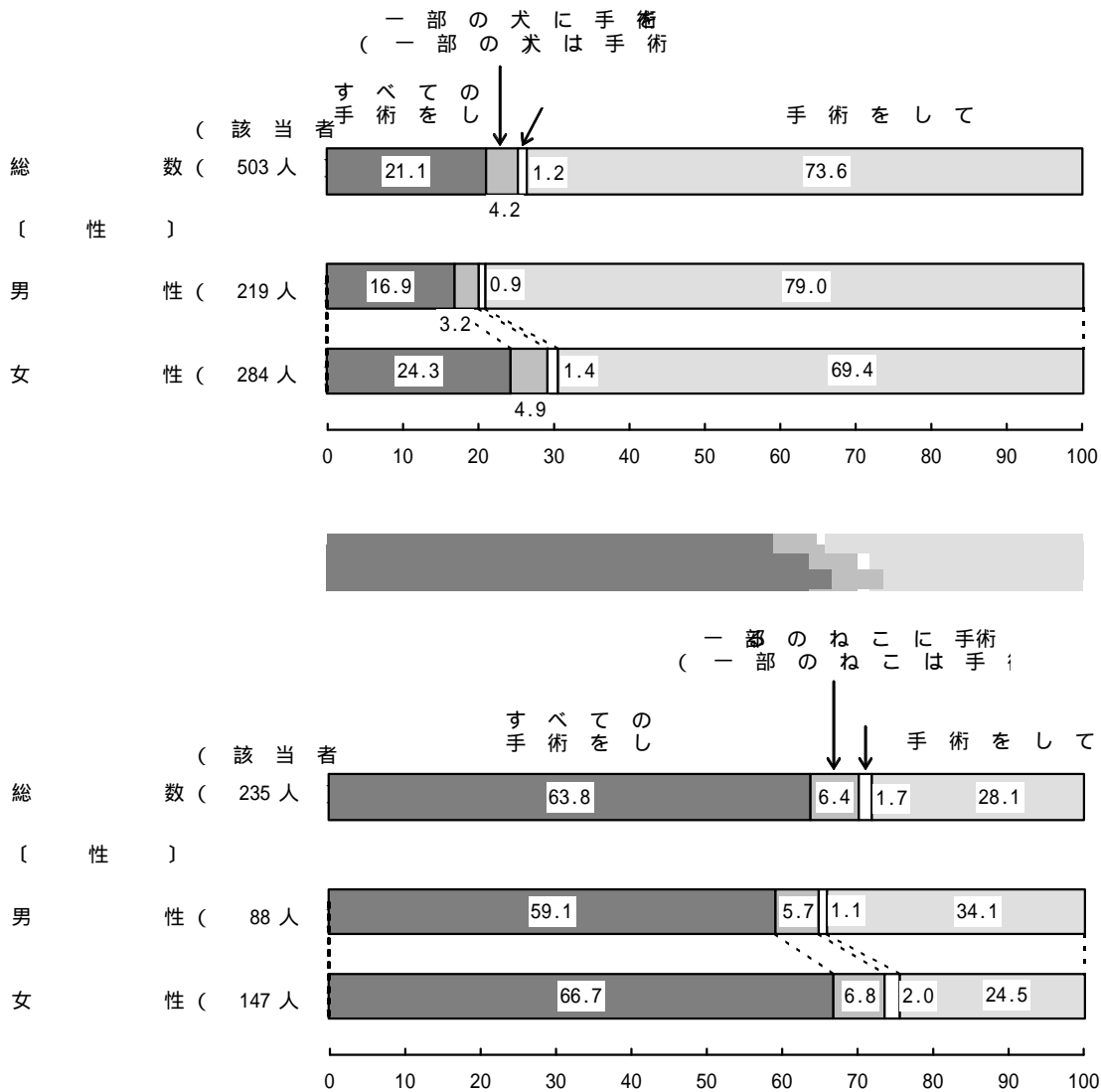
カ 去勢・不妊手術をしているか（犬またはねこを「飼っている」と答えた者）

平成15年7月

・犬（503人）		
すべての犬に手術をしている		21.1%
一部の犬に手術をしている（一部の犬は手術していない）		4.2%
手術をしていない		73.6%
・ねこ（235人）		
すべてのねこに手術をしている		63.8%
一部のねこに手術をしている（一部のねこは手術をしていない）		6.4%
手術をしていない		28.1%

図8 去勢・不妊手術をしているか

（犬またはねこを「飼っている」）

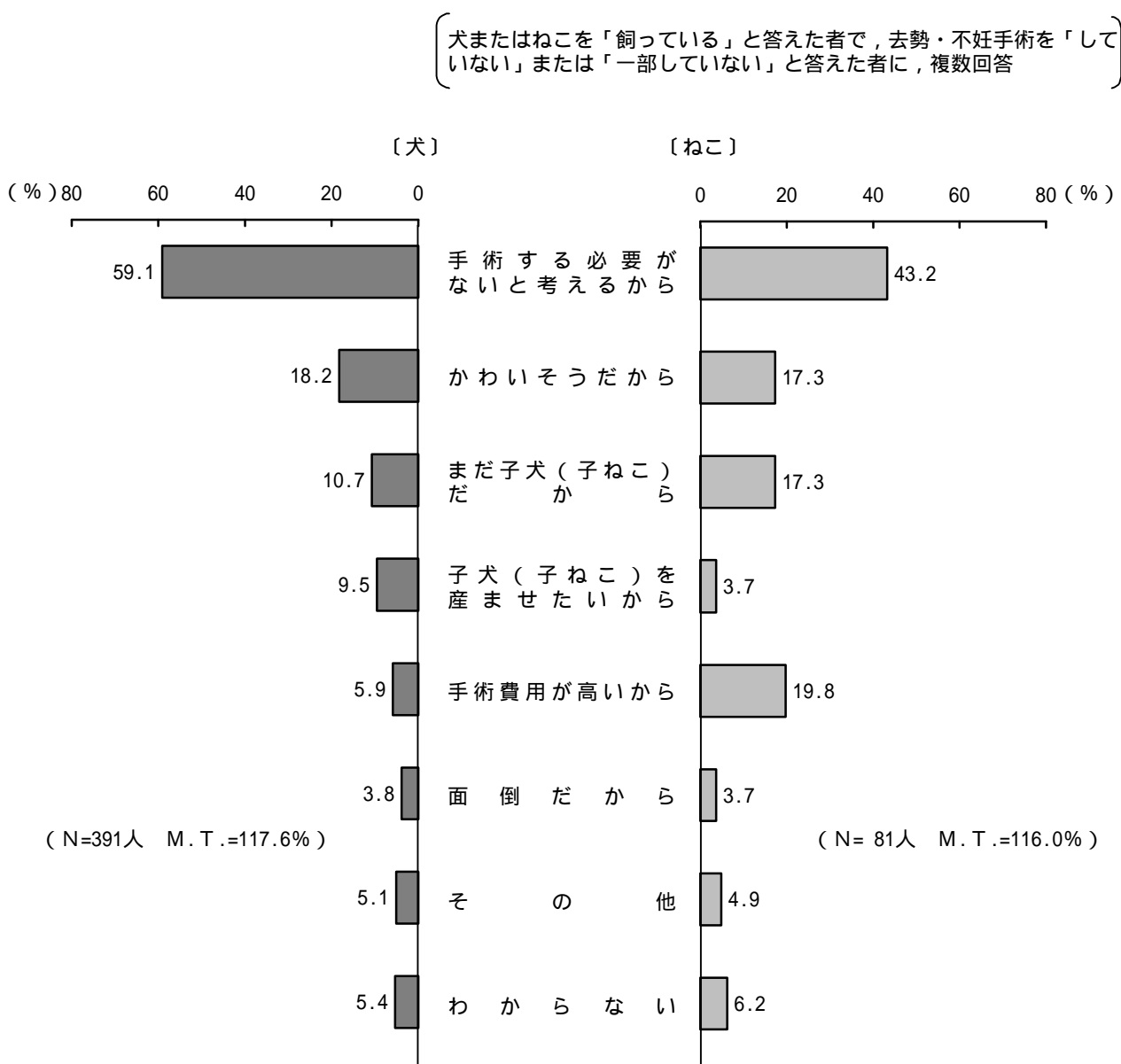


キ 去勢・不妊手術をしていない理由(犬またはねこを「飼っている」と答えた者で、去勢または不妊手術を「していない」または「一部していない」と答えた者)(複数回答)

平成15年7月

- ・犬(391人)(上位2項目)
 - 手術する必要がないと考えるから 59.1%
 - かわいそうだから 18.2%
- ・ねこ(81人)(上位4項目)
 - 手術する必要がないと考えるから 43.2%
 - 手術費用が高いから 19.8%
 - かわいそうだから 17.3%
 - まだ子ねこだから 17.3%

図9 去勢・不妊手術をしていない理由



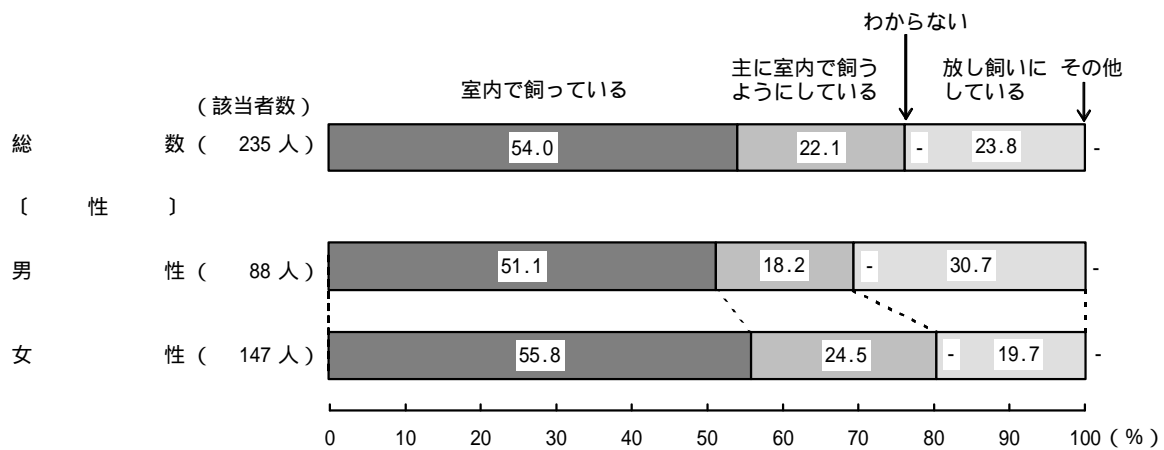
ク ねこの飼育方法（ねこを「飼っている」と答えた者（235人））

平成15年7月

- ・室内で飼っている 54.0%
- ・主に室内で飼うようにしている 22.1%
- ・放し飼いにしている 23.8%

図 10 ねこの飼育方法

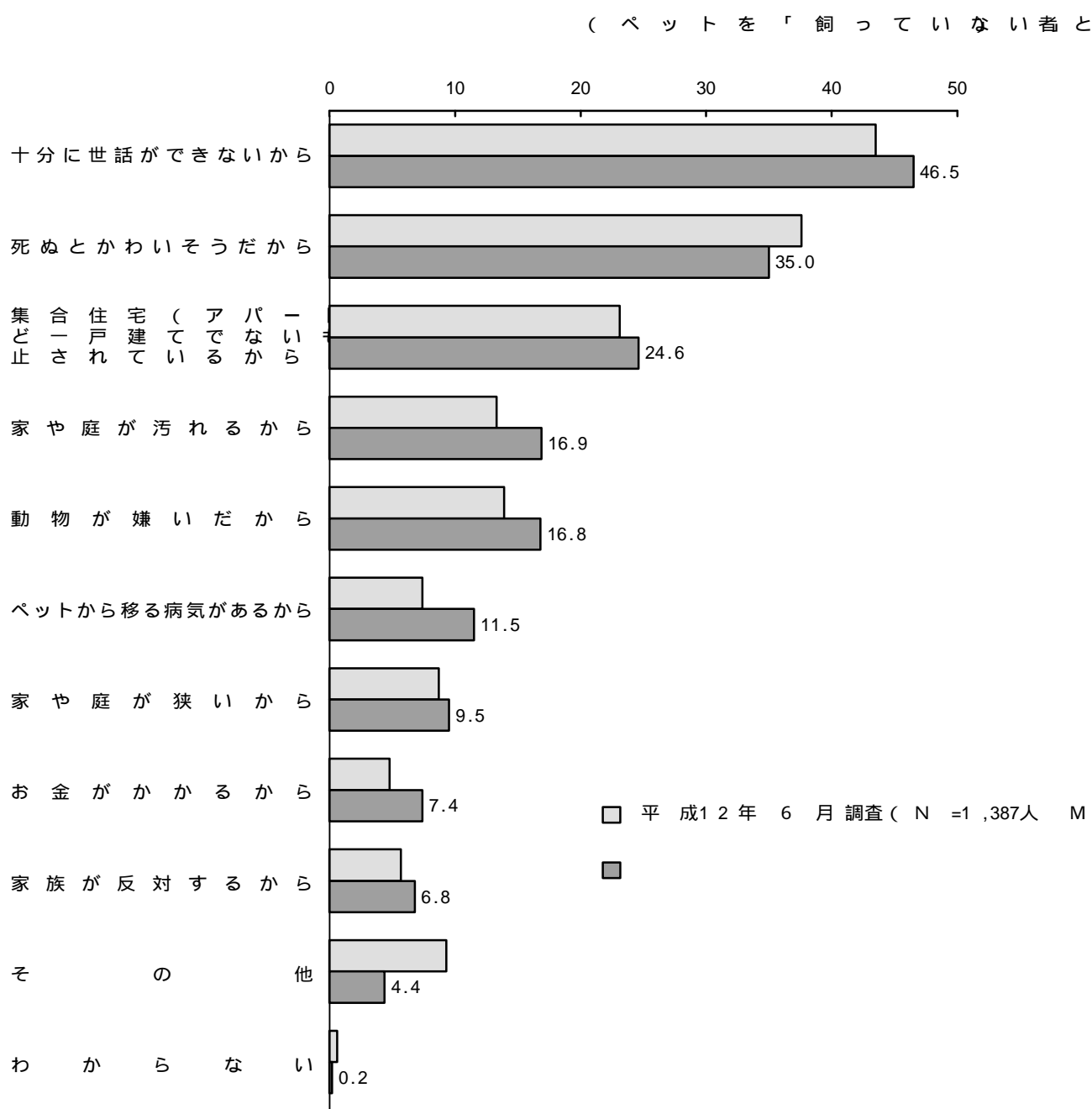
（ねこを「飼っている」と答えた者に）



ケ ペットを飼わない理由(ペットを「飼っていない」と答えた者(1,396人))(複数回答, 上位5項目)

	平成12年6月	平成15年7月
・十分に世話ができないから	43.5%	46.5%
・死ぬとかわいそうだから	37.6%	35.0%
・集合住宅(アパート・マンションなど一戸建てでないもの)であり、禁止されているから	23.1%	24.6%
・家や庭が汚れるから	13.3%	16.9% (増)
・動物が嫌いだから	13.9%	16.8% (増)

図 11 ペットを飼わない理由

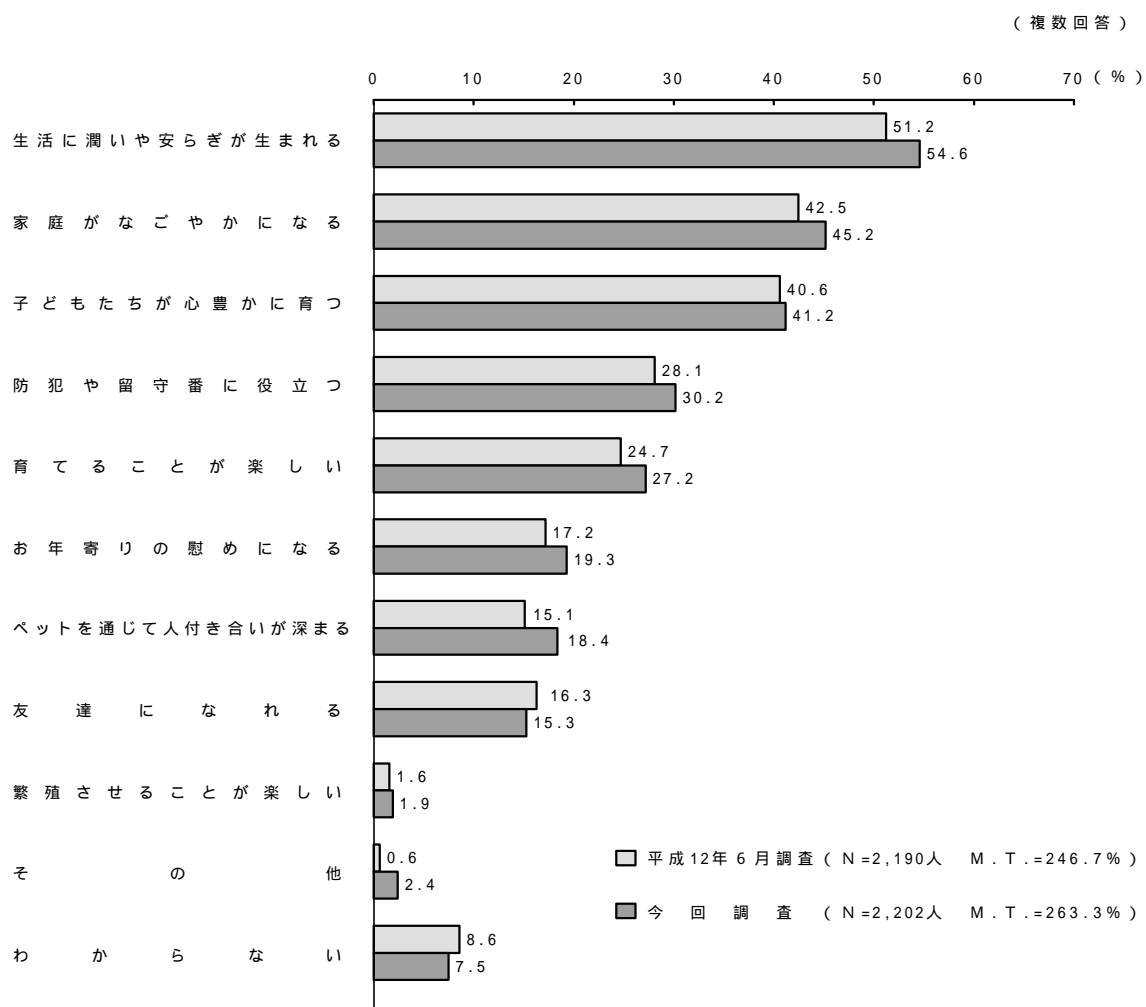


2 ペット飼育に関する意識について

(1) ペット飼育がよい理由（複数回答，上位5項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・生活に潤いや安らぎが生まれる	51.2%	54.6%（増）
・家庭がなごやかになる	42.5%	45.2%
・子どもたちが心豊かに育つ	40.6%	41.2%
・防犯や留守番に役立つ	28.1%	30.2%
・育てることが楽しい	24.7%	27.2%

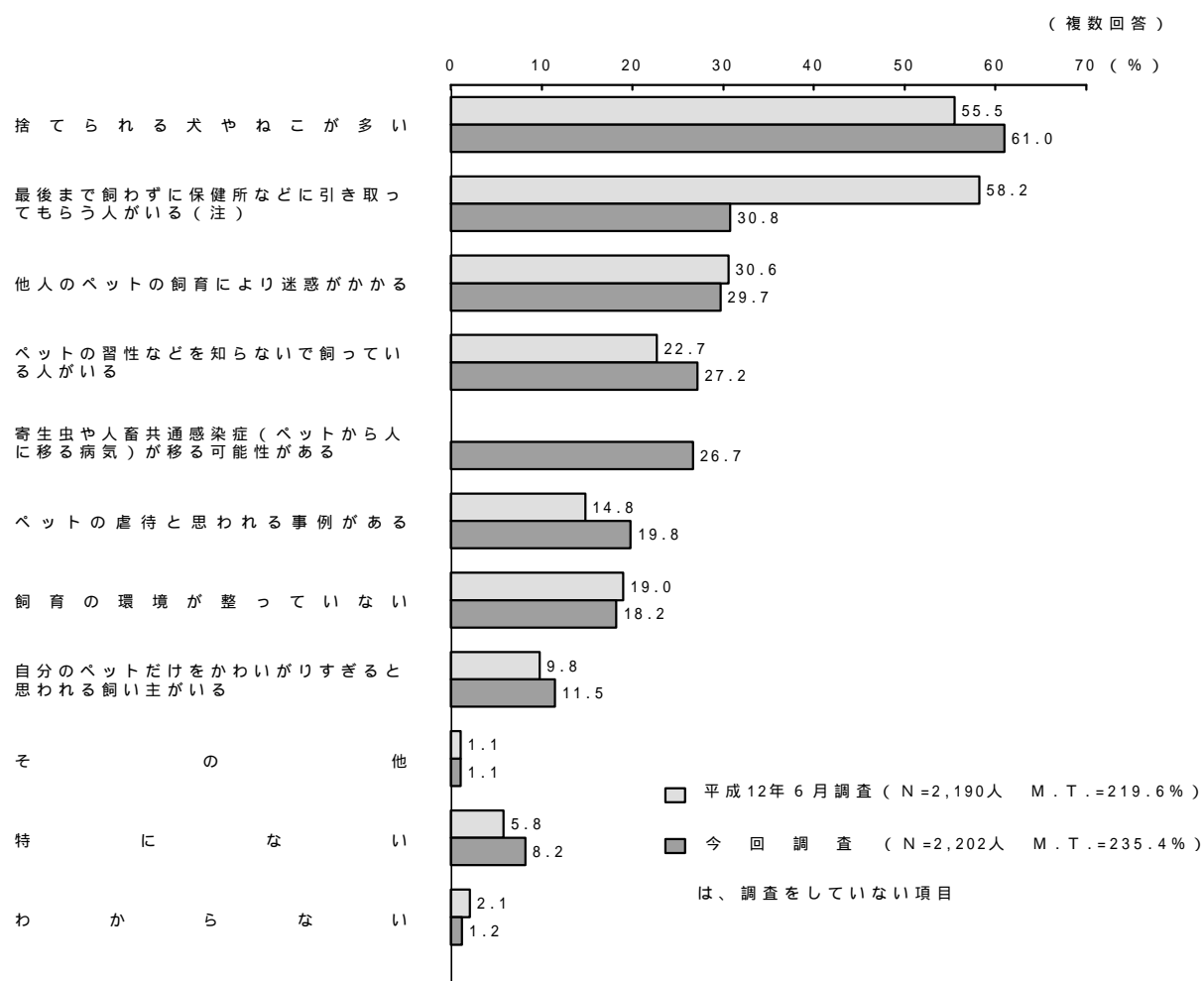
図12 ペット飼育がよい理由



(2) ペット飼育の問題点（複数回答，上位5項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・捨てられる犬やねこが多い	55.5%	61.0%（増）
・最後まで飼わずに保健所などに引き取ってもらう人がいる（注）	58.2%	30.8%（減）
・他人のペットの飼育により迷惑がかかる	30.6%	29.7%
・ペットの習性などを知らないで飼っている人がいる	22.7%	27.2%（増）
・寄生虫や人畜共通感染症（ペットから人に移る病気）が移る可能性がある	-	26.7%

図 13 ペット飼育の問題点



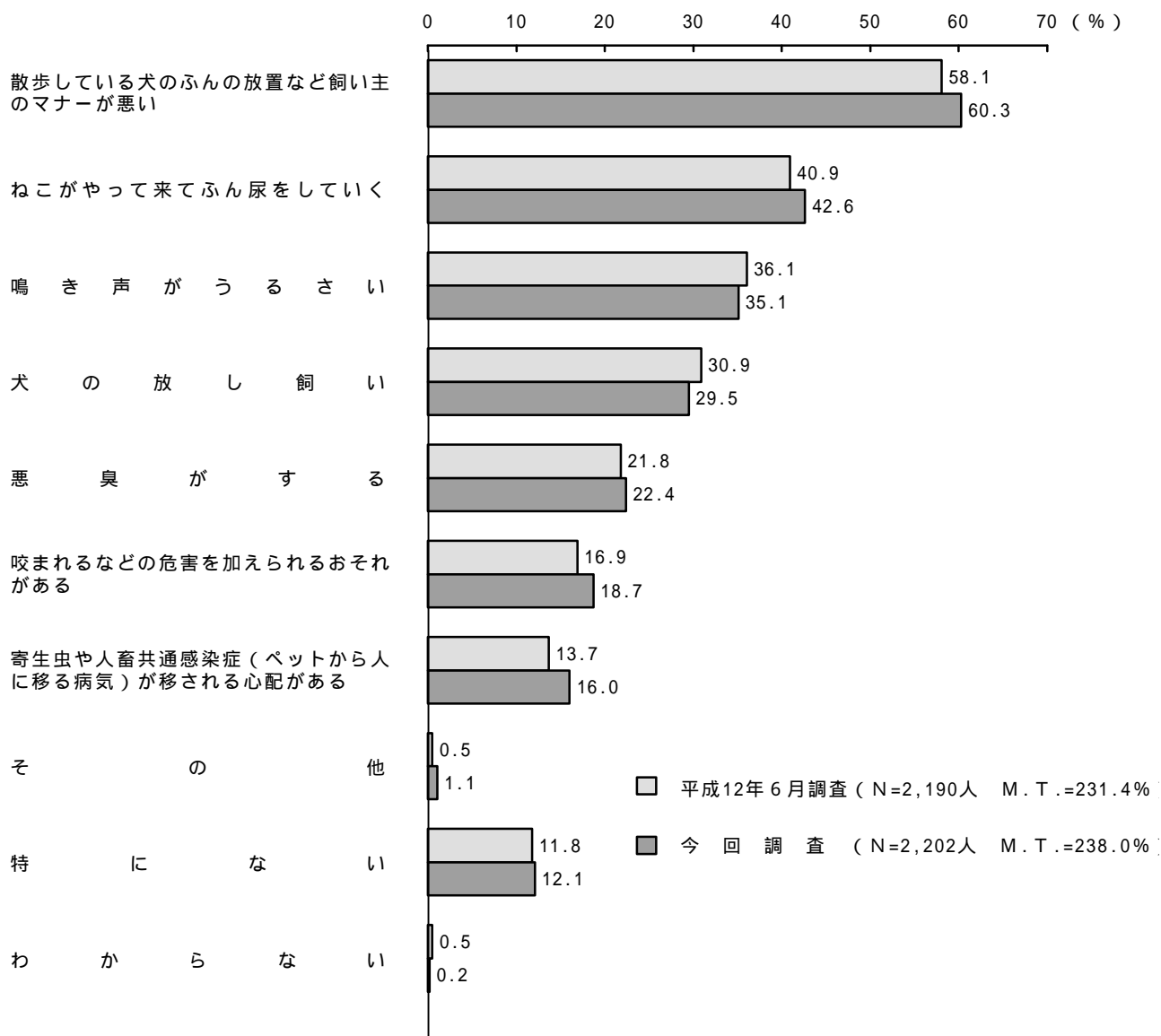
（注）平成12年6月調査では、「最後まで飼わない人がいる」となっている。

(3) ペット飼育による迷惑（複数回答，上位4項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・散歩している犬のふんの放置など飼い主のマナーが悪い	58.1%	60.3%
・ねこがやって来てふん尿をしていく	40.9%	42.6%
・鳴き声がうるさい	36.1%	35.1%
・犬の放し飼い	30.9%	29.5%

図 14 ペット飼育による迷惑

（複数回答）

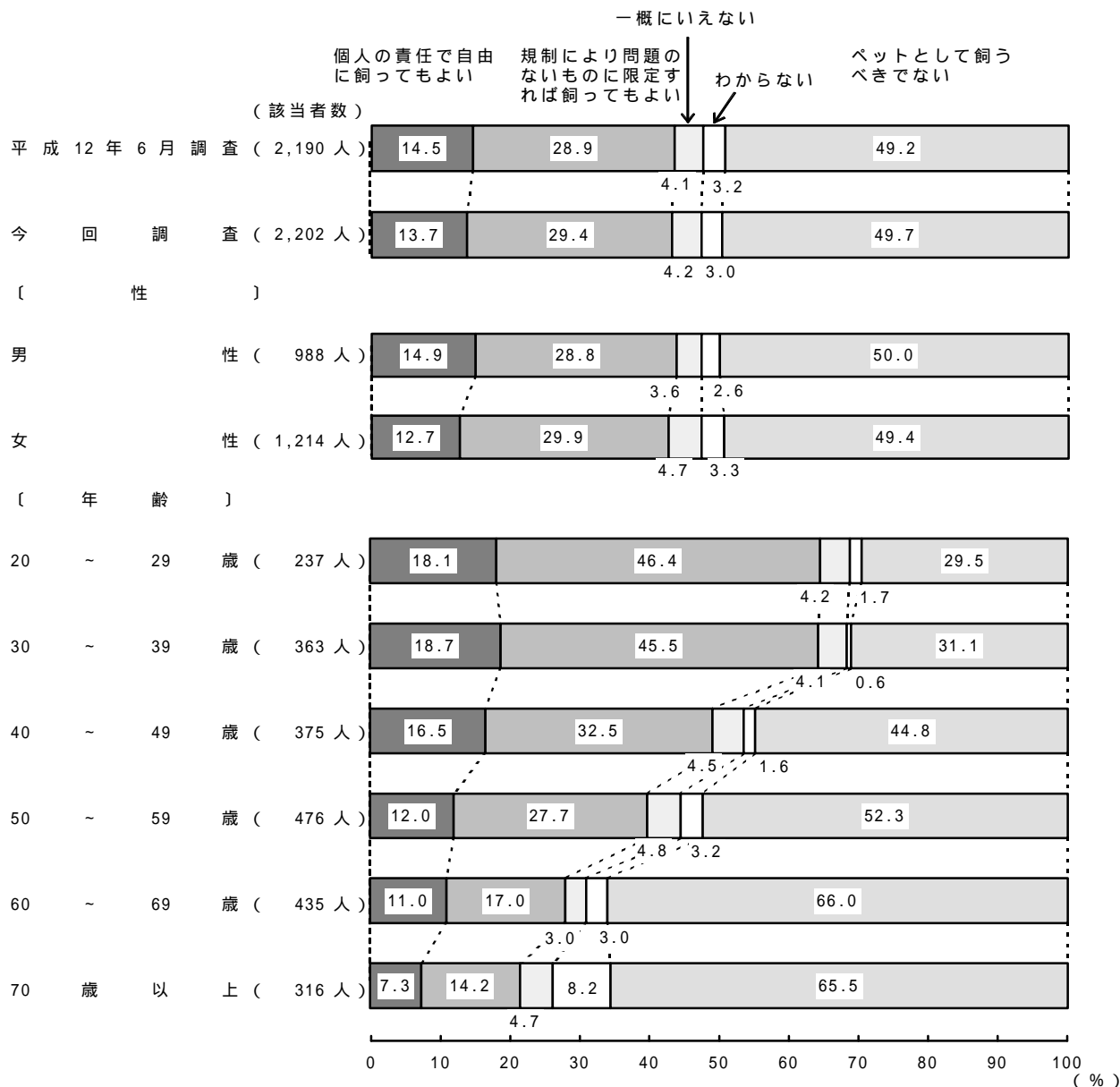


3 ペット飼育の是非について

(1) 外国産野生動物の飼育

	平成12年6月	平成15年7月
・個人の責任で自由に飼ってもよい	14.5%	13.7%
・規制により問題のないものに限定すれば飼ってもよい	28.9%	29.4%
・ペットとして飼うべきでない	49.2%	49.7%

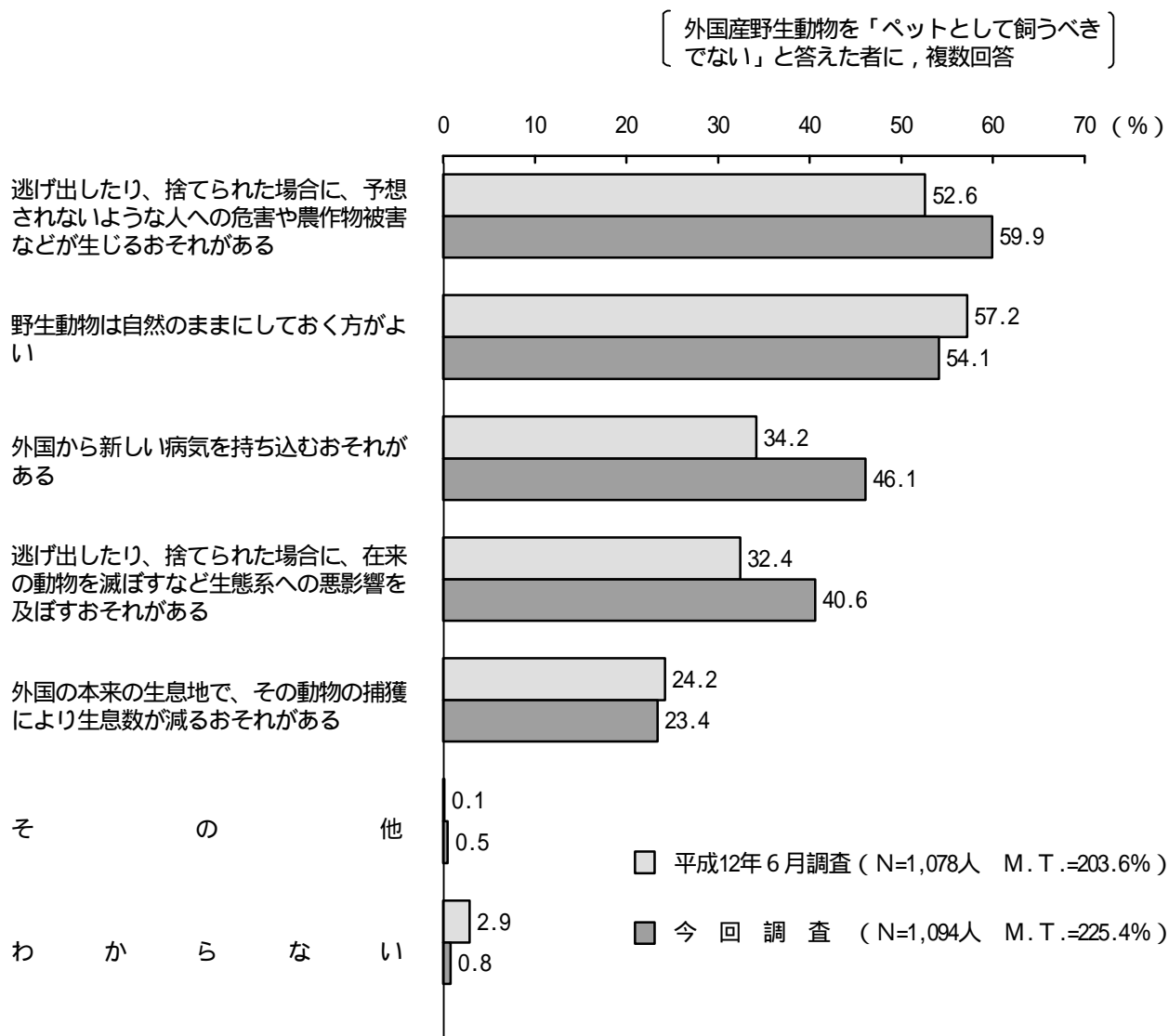
図 15 外国産野生動物の飼育



ア 外国産野生動物を飼育すべきでない理由（外国産の野生動物をペットとして飼うべきでないと答えた者（1,094人））（複数回答，上位4項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・逃げ出したり，捨てられた場合に，予想されないような人への危害や農作物被害などが生じるおそれがある	52.6%	59.9%（増）
・野生動物は自然のままにしておく方がよい	57.2%	54.1%
・外国から新しい病気を持ち込むおそれがある	34.2%	46.1%（増）
・逃げ出したり，捨てられた場合に，在来の動物を滅ぼすなど生態系への悪影響を及ぼすおそれがある	32.4%	40.6%（増）

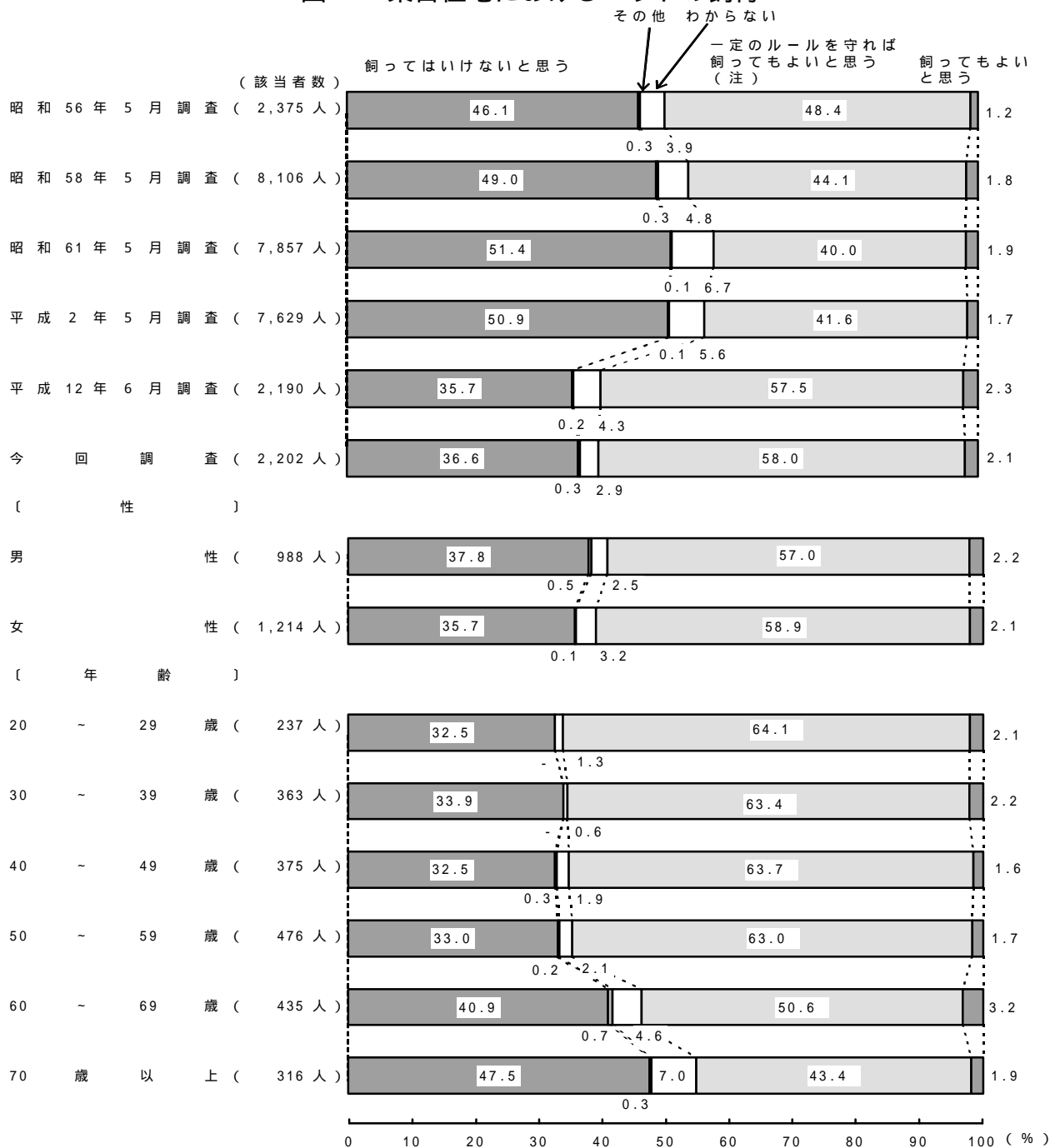
図 16 外国産野生動物を飼育すべきでない理由



(2) 集合住宅におけるペットの飼育

	平成12年6月	平成15年7月
・飼ってはいけないと思う	35.7%	36.6%
・一定のルールを守れば飼ってもよいと思う	57.5%	58.0%
・飼ってもよいと思う	2.3%	2.1%

図 17 集合住宅におけるペットの飼育

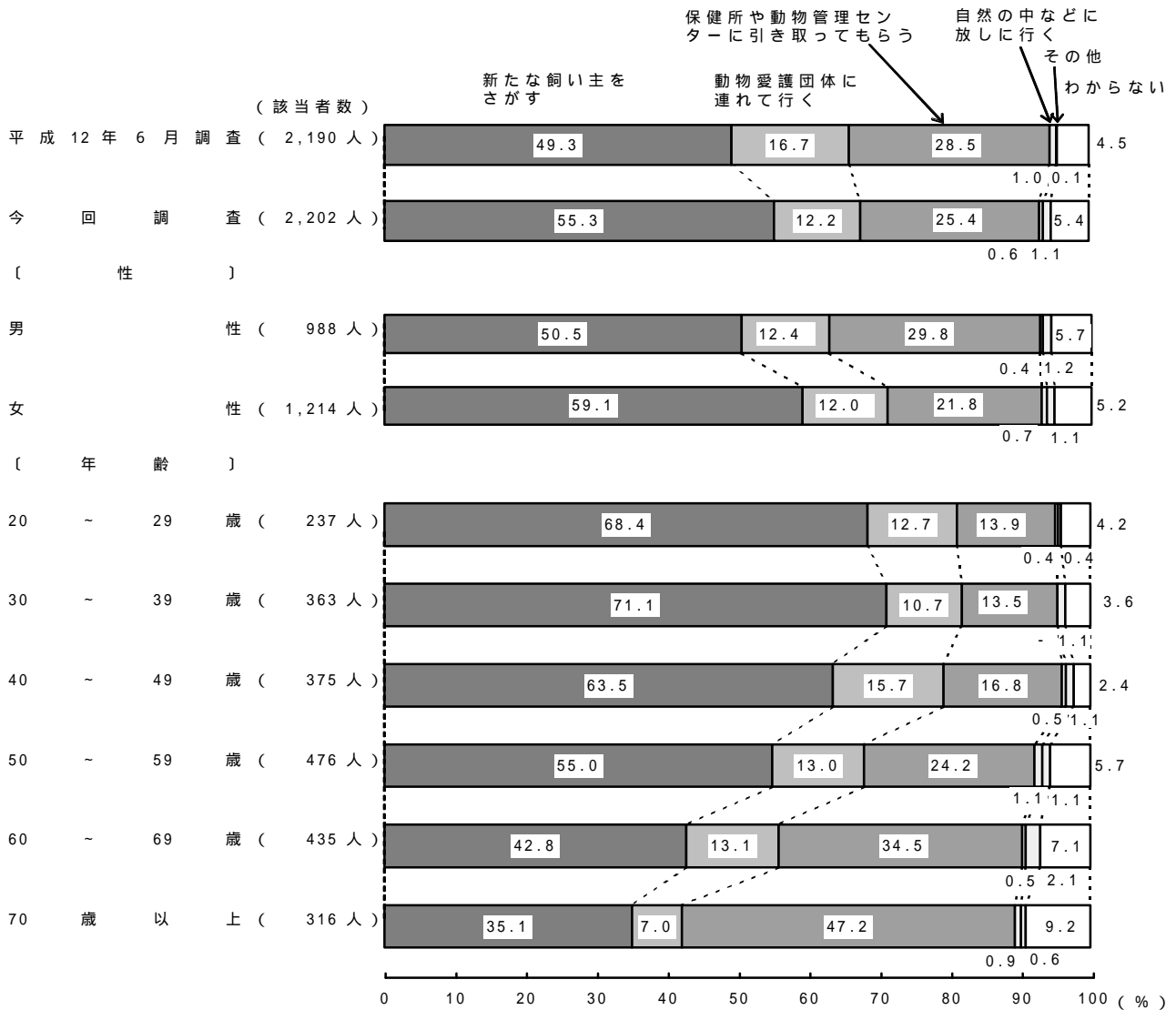


(注) 昭和56年5月調査, 昭和58年5月調査では, 「他の人に迷惑をかけないようにすれば飼ってもよいと思う」となっている。

(3) 飼えなくなったペットの処置

	平成12年6月	平成15年7月
・新たな飼い主をさがす	49.3%	55.3% (増)
・動物愛護団体に連れて行く	16.7%	12.2% (減)
・保健所や動物管理センターに引き取ってもらう	28.5%	25.4% (減)
・自然の中などに放しに行く	1.0%	0.6%

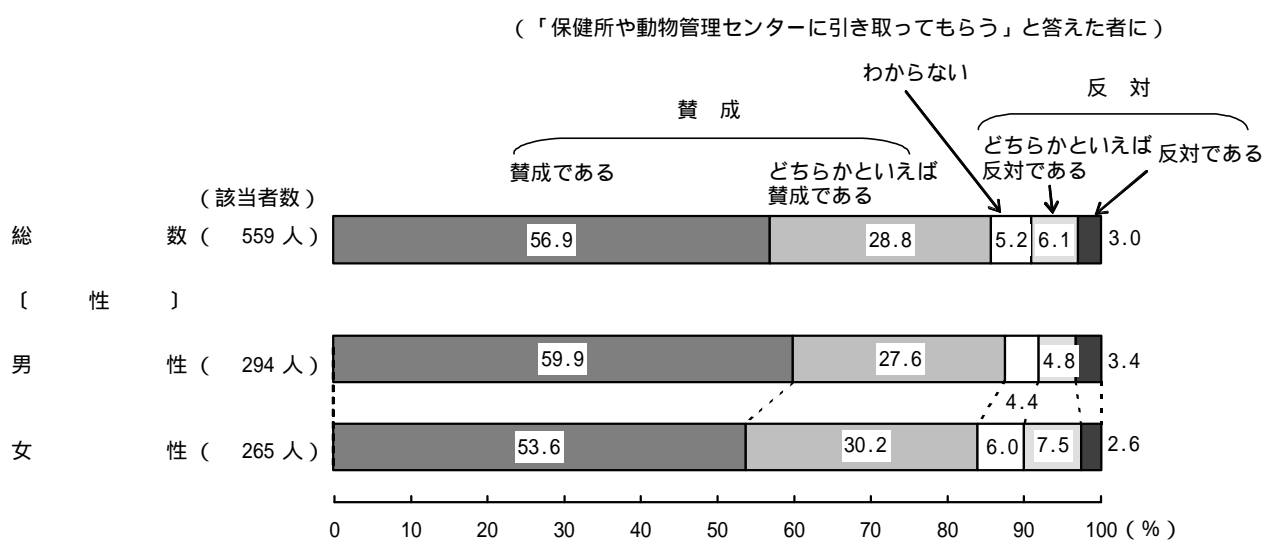
図 18 飼えなくなったペットの処置



ア 引取り費用の負担の是非(「保健所や動物管理センターに引取ってもらう」と答えた者(559人))

		平成15年7月
・賛成		85.7%
賛成である		56.9%
どちらかといえば賛成である		28.8%
・反対		9.1%
どちらかといえば反対である		6.1%
反対である		3.0%

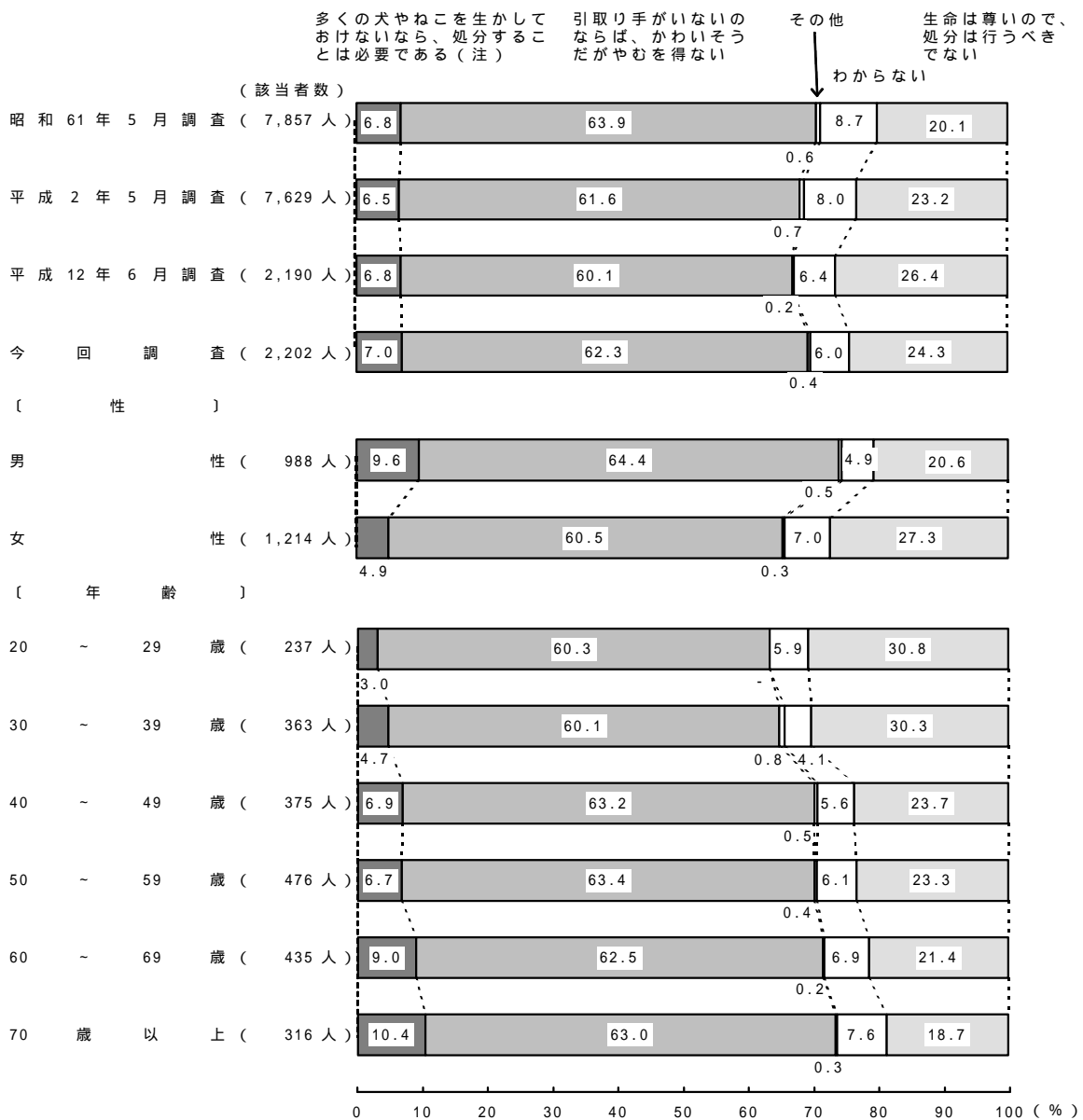
図 19 引取り費用の負担の是非



(4) ペットの安楽死処分

	平成12年6月	平成15年7月
・多くの犬やねこを生かしておけないなら、処分することは必要である	6.8%	7.0%
・引取り手がいないのならば、かわいそうだがやむを得ない	60.1%	62.3%
・生命は尊いので、処分は行うべきでない	26.4%	24.3%

図 20 ペットの安楽死処分



（注）昭和61年5月調査、平成2年5月調査では「多くの犬やねこを生かしておけないのなら、処分するのは当然である」となっている。

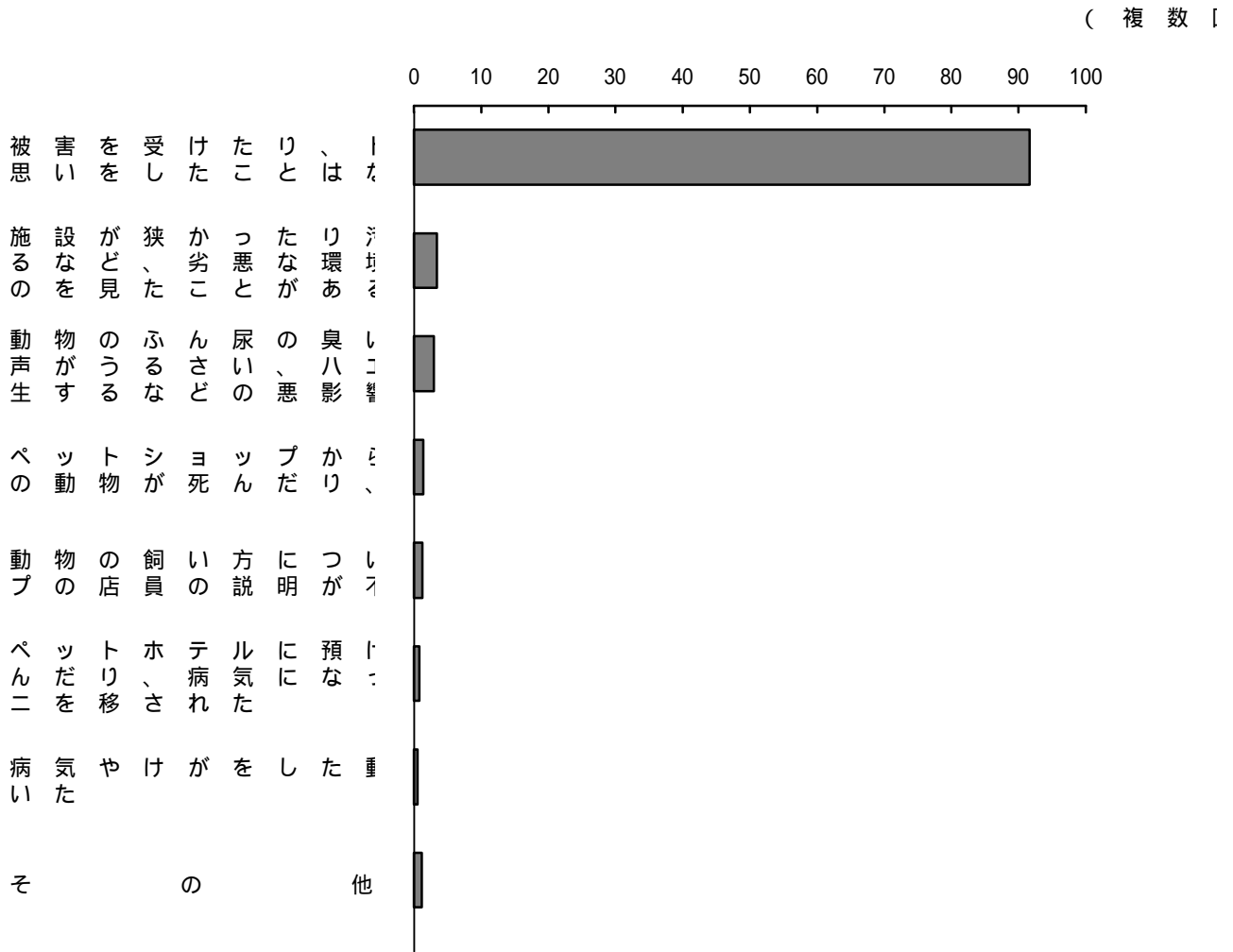
4 ペットショップや動物園などの動物取扱業者について

(1) 動物取扱業者からの被害等の有無 (複数回答)

平成15年7月
91.6%

・被害を受けたり，トラブルや不快な思いをしたことはない

図 21 動物取扱業者からの被害等の有無



5 動物愛護管理政策の推進について

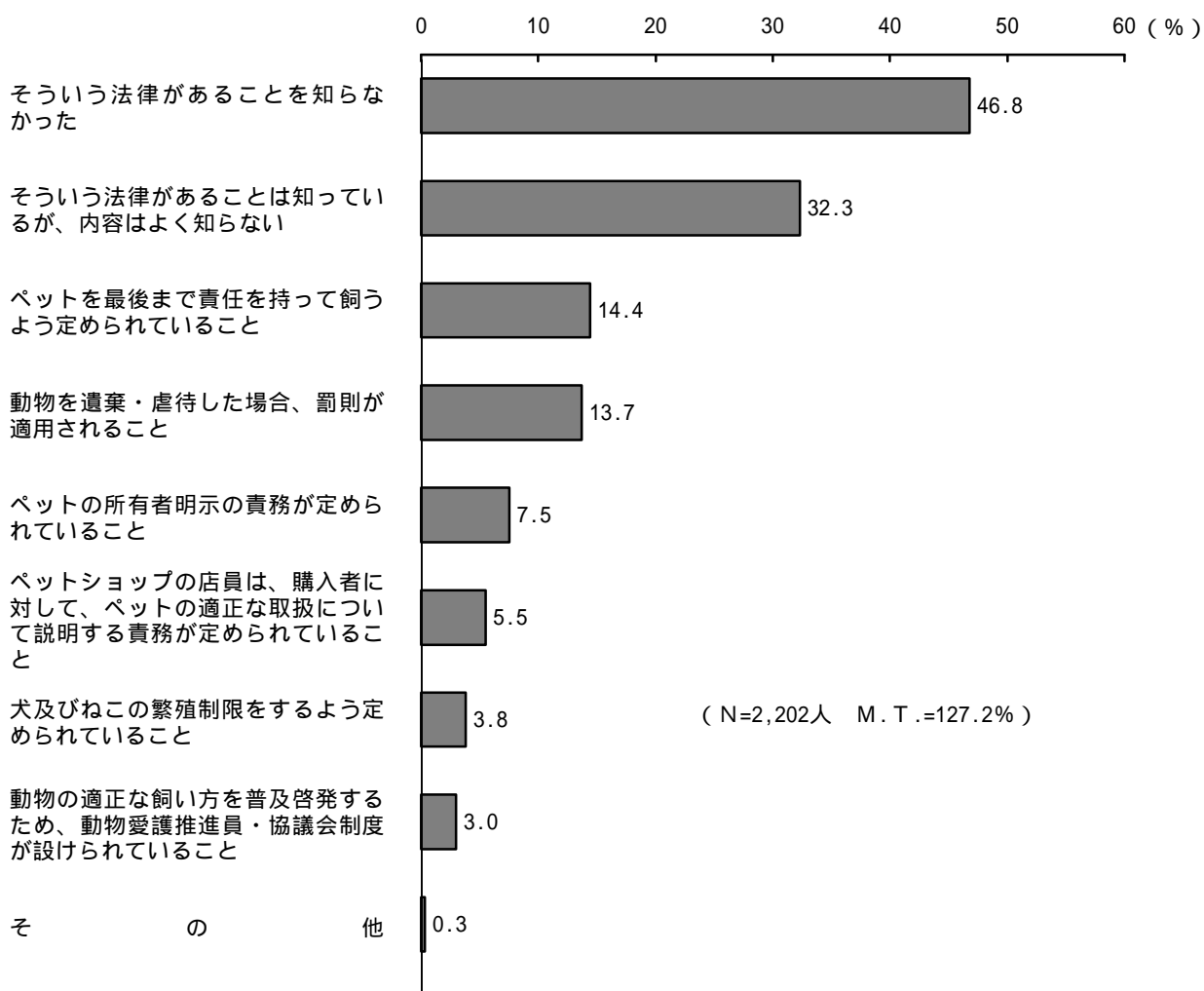
(1) 動物の愛護及び管理に関する法律の周知度（複数回答，上位4項目）

平成15年7月

- ・ そういう法律があることを知らなかった 46.8%
- ・ そういう法律があることは知っているが，内容はよく知らない 32.3%
- ・ ペットを最後まで責任を持って飼うよう定められていること 14.4%
- ・ 動物を遺棄・虐待した場合，罰則が適用されること 13.7%

図 22 動物の愛護及び管理に関する法律の周知度

（複数回答）



(2) 動物愛護管理政策に対する要望（複数回答，上位5項目）

	平成12年6月	平成15年7月
・ 飼い主の迷惑行為に対する規制や指導を強める	48.4%	50.0%
・ ペットを取り扱う業者に対する規制や指導を強める	34.4%	37.4% (増)
・ テレビ，新聞，ポスターなどでペットの愛護や正しい飼い方の重要性を訴える	31.1%	29.7%
・ ペットの愛護や正しい飼い方について学校や社会教育の場で十分に引き上げる	25.8%	27.2%
・ ペットの愛護や正しい飼い方の相談や要望に応じる行政窓口を充実させる	24.5%	25.2%

図 23 動物愛護管理政策に対する要望

